

報告

愛知県立大学映像制作ワークショップ 10周年記念事業 シンポジウム「映像人類学と大学教育： 実践事例報告と今後の展望」実施報告

愛知県立大学外国語学部国際関係学科
亀井伸孝

【開催概要】

2023年2月14日(火)16:00~18:00

会場:オンライン形式(Zoom 会議室と YouTube ライブ配信を併用)

主催:愛知県立大学(映像制作ワークショップ 10周年記念事業実行委員会/多文化共生研究所)

共催:中部人類学談話会(日本文化人類学会中部地区研究懇談会)

協力:愛知県立大学地域連携センター

参加人数:約 120 名(うち本学学生 14 名、本学教職員 6 名、学外一般参加者約 100 名)

1. シンポジウム開催の目的

映像や写真など、さまざまなメディアを用いた社会調査の技法の活用が求められる時代にある。愛知県立大学では、2012年に学長特別教員研究費の助成のもと、外部講師の協力を得つつ、映像制作ワークショップを開始した。以後、毎年の教育実践を重ね、2022年で10周年を迎えた。今回のシンポジウムでは、これまでの映像制作教育の取り組みを振り返るとともに、複数の大学における教育の実践事例報告や、実習経験者のメッセージをまじえて、達成と課題を検討した。これらをもとに、最新の映像人類学の潮流をふまえた、新しい大学教育のあり方を展望した。

2. シンポジウムの内容

本シンポジウムは、三つの部から構成された(表1)。

第一部では、2012年から映像制作教育事業を実施してきた、本学専任教員の亀井と、同事業をゲスト講師として一貫して支え、関わってきた愛知淑徳大学の中村が、それぞれの立場から教育実践経験を紹介するとともに、この10年を振り返ることによって見えてきた、技術や映像観、作風などの各側面における変化などについて紹介した。

第二部では、本学と合同上映会などを通じて交流のあった桃山学院大学の森田、過去に本学にゲスト講師として関わった神戸女学院大学の南出の2人の大学教員から、それぞれの

大学における映像人類学教育の実践状況についての報告があった。

第三部では、かつて本学で映像制作実習に関わった卒業生 2 人が報告を行った。本学国際関係学科を卒業し、現在は京都大学大学院に在籍する星野は、自らの映像制作経験がその後の自身のセネガルでのフィールドワークの実績などにつながった経験を報告した。本学スペイン語圏専攻を卒業し、現在は岐阜県川辺町に勤務する中山(味村)は、在学中の経験が、その後の複数の職種において活用されたという事例を紹介した。

最後に、質疑応答を行った。日本では取り組みが少ない映像人類学教育への期待や、映像教育と人類学教育の関連などについて、一般視聴者から多くの質問、コメントが寄せられた。

3. 参加者の状況

Zoom 会議室の収容人数を想定して定員制を設けたが、予想を上回る数多くの参加希望があった。このため、Zoom 会議室と YouTube ライブ配信を組み合わせ、一部の視聴者には YouTube の方で視聴するように案内することとなった。学生たちスタッフ 3 人が、これらの配信などの技術的側面の管理を担当した(表 2)。

映像人類学の教育を実践している大学は、全国的にも数少ない。このような状況の中、本学が 10 年間の取り組みをまとめた上でその成果を発信したことは、本学の教育・研究の達成ぶりを示す意味をあわせもち、大学広報という観点でも有益な事業となった。

行事終了後に届いたコメントとしては、「どの発表も興味深いものばかりで、楽しく聴講しました」「大変参考になることばかりでした」「具体的な教育実践例が聞けてとても勉強になりました」「愛知県立大学における映像制作実習の 10 年をきちんと総括し、それを発信しているのはとても素晴らしいことだと感じました」などと、きわめて好意的な反響が多かった。さらに、今後とも継続して同様の行事で発信を続けてほしいとの要望もあった。

なお、本シンポジウムの発表をもとに、登壇者らで共著論文をまとめ、近日中に『外国語学部紀要』にて刊行することによって、この行事の成果を記録にとどめる計画を進めている。



左から：亀井伸孝・中村真里絵・森田良成の各氏



左から：南出和余・星野佐和・中山(味村)由衣の各氏

写真：当日の様子(発表者)

(写真はいずれも、2023年2月14日、Zoom 会議室上にて主催者撮影)

表 1 シンポジウムのプログラム(当日実施状況に基づき亀井作成)

<p>■第一部:愛知県立大学 10 年の取り組み報告(16:00-16:30) 亀井伸孝(愛知県立大学教授) 「開催趣旨」「映像制作実習 10 年の歩み:愛知県立大学の取り組み事例」</p> <p>中村真里絵(愛知淑徳大学助教) 「映像制作実習の取り組みを通じて見えてくる映像と学生とのかかわり」</p> <p>■第二部:各大学での実践事例報告(16:30-17:00) 森田良成(桃山学院大学准教授)「フィールドワークに基づく映像制作実習」</p> <p>南出和余(神戸女学院大学准教授)「映像制作実習を通じて考える人類学教育の意義」</p> <p>■第三部:実習経験者からのメッセージ(17:00-17:30) 星野佐和(京都大学大学院博士後期課程大学院生/愛知県立大学国際関係学科卒業生) 「フィールドワークにおける音楽実践の撮影と映像資料の活用」</p> <p>中山(味村)由衣(岐阜県川辺町職員/愛知県立大学スペイン語圏専攻卒業生) 「映像制作実習とその後の映像制作について」</p> <p>■総合討論(17:30-18:00)</p>

表 2 シンポジウムのスタッフ(当日実施状況に基づき亀井作成)

<p>■司会進行 亀井伸孝(愛知県立大学教授)</p> <p>■タイムキーパー 谷本夏緒(愛知県立大学学生)</p> <p>■Zoom 会議室管理 坪井佑介(愛知県立大学卒業生)</p> <p>■YouTube ライブ配信管理 森川美優(愛知県立大学学生)</p>
--